

「ありがとう」

大倉 憲雄

私は毎日 車に乗ってお参りをまわっているのですが
去年のある日ラジオから「ありがとうの反対語ってなんでしょう？」って聞こえてきました。

その時 私はありがとうの反対語って今まで、考えたこともありませんでした。
それで答えは「あたりまえ」でした。

「ありがとう」は漢字で書くと「有ること難し」です。

あることが難しいとか、めったにないとかいう意味です。

私たちは毎日生活の中でたくさんの出来事があたりまえと思って生活しています。

朝起きて目が明いて 腕が動いて 立って歩いて 朝ご飯を食べて

子供がいて 妻がいて おじいさん おばあさんがいて

自分がまだ死なないのも、あたりまえのように、すべてがあたりまえです。

有り難いと思う心が起こるときは、起きたことがあたりまえじゃ無くなった時です。

しかし私たちは、あたりまえと思っている事が、当たり前で無くなるまでなかなか気づく
事ができません。

先日もご門徒の方の葬儀があり火葬場で最後のお参りをし、茶毘にふされるまで立ち合いました。

火葬炉の扉が閉まるとき、その家族の方が亡き人に向かって

「ありがとう ありがとう」と言って見送りました。

生きている時はあたりまえの様に一緒に生活して、あたりまえじゃ無くなったとき
はっと気づかされるのです。

それが「ありがとう」という言葉になるのです。

あたりまえと思って生活している人生では、幸せがあたりまえになり

本当の幸せを見つけることが、難しくなってるのかもしれない。

あたりまえと思って生活している自分に気づき、あたりまえじゃないことに

気づかされていく生活が、本当の幸せを見つけられるのでは
ないでしょうか。

ふだん使う「ありがとう」も、とうぜん大切ですが

「ありがとう」が「あたりまえ」にならないように

生活したいものです。